

成人女性の生きがいに関する生涯発達心理学的研究 II

—生きがいの場の検討—

大井 京子*, 井上 俊哉**, 井森 澄江***, 西村 純一****

(平成18年10月5日受理)

Life-span Development Psychological Study of the Purpose in Life among Adult Women II : Investigation of the Place for the Purpose in Life

Ooi, Kyoko INOUE, Shunya IMORI, Sumie and NISHIMURA, Junichi

(Received on October 5, 2006)

キーワード：生涯発達心理学的研究，成人女性，生きがい，場

Key words : life-span development psychological study ; adult woman ; the purpose in life ; place

目的

急激な社会の変化，少子高齢化が進む中で，成人女性の生き方やライフスタイルも多様化している。モラトリアムが長期化し晩婚化も進むことによって，女性としてどのような生き方をしていくのか，どのようなものに価値や生きがいを感じて生きていくか先の見えない社会になっているといえよう。2007年には団塊の世代が退職を向かえはじめ，多くの人が定年退職後の生活をどう構築していくのか，その生き方が問われている。こうした中で，財団法人シニアプラン機構では，サラリーマンの生活と生きがいに関する調査を平成3年度から実施しており，21世紀におけるサラリーマンの生活と生きがいのあり方について検討をしている。「サラリーマンにおける調査」では，日本の普通のサラリーマンが感じているとみられる比較的一般的な生きがいの感じのカテゴリーを9種類用意し，個々人に自分の感じ方にもっとも近い生きがいのカテゴリーを選択させている(西村, 2005a)。2002年の調査では，“生きがい構成要素と取得の場のリンク”が重要であること，構成要素ごとに取得できる

場は異なること，生きがいの構成要素と取得の場がうまく機能しているかどうかの評価が個々人の生きがいの有無に影響することなどが示された。ただし，これらはいくまでサラリーマン(女性を含む)の調査であり，専業主婦などの女性は調査対象となっていない。

そこで，本報告では成人女性の生きがいがかどのように変化していくのか，生涯発達という視点からその実態について検討することを目的とする。高齢化は女性の方が進んでおり，また，結婚・出産といったライフイベントによって生活様式が一変するであろう女性にとっての生きがいは，各年代や生活様式によって違いが現れるのではないかと予測される。ここでは，生きがいの問題のなかでも，生きがいの構成要素を取得する“場”について特に注目し，各生きがいをいったいどのような場で獲得していくのか，年齢によってその獲得の場は変化していくのか，女性の置かれた立場(例えば，職業や婚姻状況など)によっても違いがあるのかどうかなどについて検討する。

方法

1. 分析対象

首都圏のA女子大学，短期大学(旧制高等専門学校を含む)を卒業した女性4200名のうち，返答のあった979名(年齢範囲は20歳~92歳。ただし，92歳の者は，1名だったので80代に含めた)。全体の回収率は23%であった。

* 文学部心理教育学科資料室

** 教養情報処理研究室

*** 文学部心理教育学科発達心理研究室

**** 文学部心理教育学科老年心理研究室

2. 手続き

A女子大学同窓生から、20代800名、30代800名、40代700名、50代550名、60代550名、70代600名、80代200名、計4200名を同窓会名簿から無作為に抽出し質問紙を郵送、記入後に返送を依頼した。

3. 質問紙

フェイスシート(年齢・結婚しているかどうか・職業・同居の有無等)をはじめ、理想の生き方、夫婦関係、現在の愛着(IWM尺度)、就学前の母子関係、親の養育態度(PBI)、青年期の親への愛着(IPA)、親と自分との関係、老いてくる親への世話についての態度や気持ち、自分自身や親の高齢化に伴う意識・生活に対する希望、生きがい、および自分自身の子育て行動・感情の項目の計265問である。

本報告では、主に生きがいの"場"の項目について取り上げる。

1) 生きがいの"場"についての質問項目

生活やつきあいの場を「家庭」や「仕事」などのいくつかに分けた場合、各質問項目についてどういった場でそれを感じる人が多いか、あてはまるものを2つまで選択してもらった。"場"の選択肢としては、「家庭」「仕事・会社」「地域・近隣」「個人的友人」「世間・社会」「どこにもない」の6つである。質問項目の詳細は、①生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこですか②生活のどの場で、リズムやメリハリがつかますか③心の安らぎや気晴らしを感じるのはどこが多いですか④生活のどの場で、喜びや満足感を感じる人が多いですか⑤あなたの人生観や価値観に影響を与えているのはどこの人ですか⑥生活の目標や目的は、どこにあると感じますか⑦どの場での生活が自分自身を向上させていると考えますか⑧自分の可能性を実現したり、何かをやりとげたと感じるのは、どの場でのことが多いですか⑨自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのはどの場でのことが多いですか、以上の9項目である。これらの項目は財団法人シニアプラン開発機構が実施した、「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」より作成したものである。

4. 分析方法

生きがい選択の場についての各質問項目の6つの選択肢について、すべての組み合わせのパターンから、「どこにもない」と組み合わせで答えた場合を除いたものと、

「世間・社会」「どこにもない」のそれぞれの項目のみを答えている場合の計16パターンについて分類し、選択パターンの割合を質問項目ごとに算出した。「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」では、選択肢ごとに、選択された数を質問該当標本数で割り、%を算出しているが、本報告では2つまでの多重回答の答え方で、2つ答えている場合と、1つのみ答えている場合を分けて考えることにする。また、生きがい獲得の場の選択と年齢、結婚しているかどうか、職業などとのクロス集計を算出して、年齢等の状況で生きがい獲得の場の選択に違いがあるかどうか、%を算出して比較した。

結果と考察

1. 項目別の生きがい獲得の場

各質問項目の各場の占める割合を表1に示す。生きがいを構成する各質問項目の生きがいの場選択パターンの上位3つは、以下の通りであった。①生活にはりあいや活力をもたらしてくれるのはどこですかでは、「家庭のみ」(27.8%)「家庭と友人」(14.9%)「家庭と仕事」(14.7%)。②生活のどの場で、リズムやメリハリがつかますかでは、「仕事のみ」(22.9%)「家庭のみ」(13.7%)「家庭と仕事」(15.1%)。③心の安らぎや気晴らしを感じるのはどこが多いですかでは、「家庭と友人」(35.1%)「家庭のみ」(34.6%)「友人のみ」(13.0%)。④生活のどの場で、喜びや満足感を感じる人が多いですかでは、

表1:各質問項目の生きがいの場選択状況

	生活の活力やはりあい	生活のリズムやメリハリ	心の安らぎや気晴らし	生活の喜びや満足感	人生観や価値観への影響	生活の目標や目的	自分自身の向上	自分の可能性の実現	役に立つ等の有用感
家庭と仕事	14.7	15.1	2.7	13.6	5.7	14.7	7.7	10.7	15.2
家庭と地域	5.7	6.0	2.5	5.4	2.0	4.5	2.6	3.9	6.7
家庭と友人	14.9	5.3	35.1	15.9	13.4	4.7	3.3	2.5	3.7
家庭と世間	5.7	5.5	3.5	5.2	7.2	12.8	6.2	5.0	3.2
仕事と地域	0.8	1.9	0.1	0.1	0.7	0.2	2.6	2.6	1.9
仕事と友人	4.9	4.4	0.9	3.4	5.7	0.7	6.1	1.1	3.0
仕事と世間	1.0	3.4	0.1	0.8	3.0	2.9	7.1	8.5	4.1
地域と友人	1.3	0.9	1.6	1.0	2.0	0.1	1.7	0.1	0.7
地域と世間	0.4	1.7	0.4	0.3	2.0	0.9	3.9	3.1	2.7
友人と世間	1.2	1.8	0.6	1.2	6.5	0.8	3.0	0.7	0.7
家庭のみ	27.8	13.7	34.6	32.9	18.1	41.8	11.2	12.8	23.2
仕事のみ	9.2	22.9	0.6	6.0	6.0	4.9	17.3	27.4	17.8
地域のみ	2.5	4.4	2.2	2.7	2.9	2.5	6.5	6.8	6.6
友人のみ	6.6	6.2	13.0	8.3	13.5	1.1	6.1	2.0	2.3
世間のみ	2.9	5.5	1.5	2.0	10.7	5.4	12.3	10.7	6.2
どちらでもない	0.5	1.3	0.5	1.1	0.7	2.0	2.4	2.0	2.1
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

「家庭のみ」(32.9%)「家庭と友人」(15.9%)「家庭と仕事」(13.6%)。⑤あなたの人生観や価値観に影響を与えているのはどこの人ですかでは、「家庭のみ」(18.1%)「友人のみ」(13.5%)「家庭と友人」(13.4%)。⑥生活の目標や目的は、どこにあると感じますかでは、「家庭のみ」(41.8%)「家庭と仕事」(14.7%)「家庭と世間」(12.8%)。⑦どの場での生活が自分自身を向上させていると考えますか「仕事のみ」(17.3%)「世間のみ」(12.3%)「家庭のみ」(11.2%)。⑧自分の可能性を実現したり、何かをやりとげたと感じるのは、どの場でのことが多いですかでは、「仕事のみ」(27.4%)「家庭のみ」(12.8%)「家庭と仕事」(10.7%)「世間のみ」(10.7%)⑨自分が役に立っていると感じたり、評価を得ているのはどの場でのことが多いですかでは、「家庭のみ」(23.2%)「仕事のみ」(17.8%)「家庭と仕事」(15.2%)。以上である。

これらを見ると、①の生活のはりあいや活力、④の生活の喜びや満足感、⑥の生活の目標や目的、⑨の役に立つ等の有用感といった項目では「家庭のみ」が上位を占め、②の生活のリズムやメリハリがつく、⑧の自分の可能性の実現では、「家庭と仕事」、「家庭のみ」、「仕事のみ」が上位で、「仕事のみ」の割合が高く、③の心の安らぎ、気晴らしの場、⑤の人生観、価値観に影響を与えている場合は、「家庭と友人」、「家庭のみ」、「友人のみ」が上位を占めていた。⑦の自分自身の向上する場では、「仕事のみ」が選ばれていた。心の情緒的な項目では「家庭のみ」が選ばれることが多く、自身の自己実現、

向上という点では、「仕事のみ」が一番多く選ばれている。とくに割合が高かったのは、⑥の生活の目標や目的での「家庭のみ」で、約半数近くの人を選択していた。西村(2005a)は、サラリーマンの生きがいについて等質性分析を行い、2つの異なる生きがい感の因子を示している。その一つは「心の安らぎや気晴らし」「生活のリズムやメリハリ」など生活の安定感の方向で生きがいを感じているか、それとも「生きる喜びや満足感」「自己実現や達成感」など生活の充実感の方向で生きがいを感じているかの因子である。二つ目の因子は、「人生観・価値観の形成」「自分自身の向上」などの人間的成長の方向と、「生活の活力やはりあい」「心の安らぎや気晴らし」など精神的安定の方向で生きがいを感じているかを判別する因子である。これらの生きがいの因子の方向性に、生きがいの場を各項目に当てはめてみると、今回の調査では、人間的成長の方向性では「仕事」が、精神的安定、生活の充実感では「家庭」が主に選択されていた。人間的成長は自分とは違うものに出会うことによって刺激を受け、成長していくことが多い。そのため、自分自身の向上や自己実現といった生きがいの構成要素では、仕事を選択されていたのではないだろうか。一方安らぎや喜びなど、内面的な精神的安定といった生きがいを求めた場合には、それを獲得する場として、より個人的な場を選択した結果、「家庭」を選択する人が多かったと思われる。

表2: 年代別生きがい獲得の場

生きがいの場選択率1位		(%)						
項目 / 年代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	
生活の活力やはりあい	仕事のみ(18.2)	家庭のみ(23.9)	家庭のみ(28.0)	家庭のみ(29.8)	家庭のみ(28.1)	家庭のみ(30.3)	家庭のみ(41.9)	
生活のリズムやメリハリ	仕事のみ(44.9)	仕事のみ(31.9)	仕事のみ(29.8)	仕事のみ(20.5)	仕事のみ(17.0)	家庭のみ(15.8)	家庭のみ(26.5)	
心の安らぎや気晴らし	家庭と友人(42.4)	家庭と友人(41.0)	家庭と友人(40.1)	家庭と友人(33.9)	家庭のみ(37.4)	家庭と友人(33.2)	家庭のみ(47.4)	
生活の喜びや満足感	友人のみ(21.2)	家庭のみ(34.7)	家庭のみ(37.8)	家庭のみ(31.7)	家庭のみ(36.4)	家庭のみ(32.4)	家庭のみ(41.7)	
人生観や価値観への影響	家庭のみ(16.2)	家庭と友人(21.4)	家庭のみ(19.5)	家庭のみ(22.3)	家庭のみ(21.5)	友人のみ(16.4)	家庭のみ(24.3)	
生活の目標や目的	家庭のみ(28.6)	家庭のみ(48.7)	家庭のみ(49.0)	家庭のみ(45.9)	家庭のみ(39.2)	家庭のみ(34.1)	家庭のみ(50.0)	
自分自身の向上	仕事のみ(26.0)	仕事のみ(22.9)	仕事のみ(20.8)	仕事のみ(19.5)	世間のみ(16.5)	世間のみ(21.2)	家庭のみ(38.2)	
自分の可能性の実現	仕事のみ(53.5)	仕事のみ(39.0)	仕事のみ(31.1)	仕事のみ(27.6)	世間のみ(17.9)	世間のみ(16.8)	家庭のみ(26.5)	
役に立つ等の有用感	仕事のみ(39.0)	家庭と仕事(26.3)	家庭のみ(28.2)	家庭のみ(28.3)	家庭のみ(22.4)	家庭のみ(24.6)	家庭のみ(36.1)	

生きがいの場選択率2位		(%)						
項目 / 年代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	
生活の活力やはりあい	家庭のみ(16.2)	家庭と仕事(20.5)	家庭と仕事(24.7)	家庭と仕事(21.8)	家庭と友人(13.5)	家庭と友人(21.8)	家庭と友人(16.3)	
生活のリズムやメリハリ	家庭と仕事(18.4)	家庭と仕事(21.6)	家庭と仕事(27.8)	家庭と仕事(18.0)	家庭のみ(15.8)	家庭と地域(11.1)	友人のみ(14.7)	
心の安らぎや気晴らし	家庭のみ(36.4)	家庭のみ(32.5)	家庭のみ(36.2)	家庭のみ(33.1)	家庭と友人(30.7)	家庭のみ(28.9)	家庭と友人(21.1)	
生活の喜びや満足感	家庭のみ(20.2)	家庭と友人(21.2)	家庭と仕事(25.7)	家庭と仕事(17.1)	家庭と友人(11.0)	家庭と友人(16.8)	家庭と友人(13.9)	
人生観や価値観への影響	友人のみ(15.2)	家庭のみ(14.5)	家庭と仕事(12.1)	家庭と友人(14.0)	世間のみ(12.8)	家庭のみ(13.6)	友人のみ(16.2)	
生活の目標や目的	家庭と仕事(21.4)	家庭と仕事(21.7)	家庭と仕事(25.2)	家庭と仕事(16.4)	家庭と世間(15.2)	家庭と世間(23.1)	家庭と世間(11.1)	
自分自身の向上	仕事と友人(18.0)	家庭と仕事(16.9)	家庭のみ(13.4)	家庭のみ(10.9)	世間のみ(10.9)	世間のみ(12.3)	世間のみ(17.6)	
自分の可能性の実現	仕事と世間(16.2)	家庭と仕事(16.1)	家庭と仕事(18.2)	家庭と仕事(13.4)	家庭のみ(13.4)	仕事のみ(17.3)	家庭のみ(16.2)	
役に立つ等の有用感	家庭と仕事(20.0)	仕事のみ(25.4)	家庭と仕事(25.5)	仕事のみ(16.5)	仕事のみ(12.1)	家庭と地域(11.5)	地域のみ(11.5)	

2. 年代別にみた生きがい獲得の場

各年代の特徴について、年代ごとに上位2位まで入る場を表2に示した。①生活のほりあいでは、20代は1位が「仕事のみ」、30代以降では「家庭のみ」が選ばれていた。そして、第2位では20代は「家庭のみ」で、30代から50代が「家庭と仕事」を選び、他、「家庭と友人」も60代以降では選択されていた。②生活のリズムでは、60代までは「仕事のみ」が1位に選ばれており、70代、80代では「家庭のみ」が選択されていた。第2位では、20代から50代までが「家庭と仕事」が選ばれ、60代では「家庭のみ」、70代では「家庭と地域」、80代では「友人のみ」が選ばれていた。③心の安らぎや気晴らしでは、「家庭と友人」と「家庭のみ」のどちらかが、どの年代でも1位か2位に選ばれており、とくに「家庭と友人」は、20代から50代、70代で第1位に選ばれていた。精神的安定を求める選択の場は、家族か友人というように、女性は人によって心の安らぎを得ているものと思われる。「サラリーマンの生きがいの調査」(2003)でも、女性は男性に比べて友人の選択が多く、今回の調査とも一致している。④生活の喜びや満足感では、20代のみ「友人のみ」が1位に選ばれており、30代以降ではすべて「家庭のみ」が選択されていた。第2位では、「家庭と友人」が30代、60代、70代、80代で選ばれており、40代と50代では「家庭と仕事」が、20代では「家庭のみ」が選ばれていた。女性にとって、「家庭」という場の影響の大きさがうかがわれた。⑤人生観や価値観の影響では、20代、40代～60代、80代で「家庭のみ」が多く選択されていた。30代では「家庭と友人」、70代では「友人のみ」が選択されていた。また、60代では「世間のみ」も2番目に多く選択されていた。⑥生活の目標や目的では、すべての年代で「家庭のみ」が多く選択されていた。これらは、生活の目的としての女性の意識はやはり昔とかわらず「家」にあることを示しているものと思われる。しかし、サラリーマンの調査でも1位の選択は「家庭」であり、誰もが家族を一番に思っているという傾向がうかがえる。2位では、20代～50代までは、「家庭と仕事」となり、60代～80代では「家庭と世間」が選択されていた。人生の後半では「世間」も選択されてくるといことは興味深い。個人的な家族という枠での役割を終えると、意識は社会という大きな枠での役割に向いていくものと思われる。⑦自分自身を向上させてくれる場としては、20代～50代までは「仕事のみ」

が選ばれており、60代、70代では「世間のみ」が選ばれていた。80代は「家庭のみ」であった。2位をみると、20代は「仕事と友人」を選んでおり、30代では「家庭と仕事」40代、50代、70代では「家庭のみ」が、60代では「仕事のみ」が、80代では、「世間のみ」が選ばれていた。⑧自分の可能性の実現では、20代～50代までは「仕事のみ」、60代、70代では「世間のみ」が1位であった。これらは、可能性の実現の場としては、各年代の社会的な役割を主に担う場が選択されているものと思われる。しかし第2位をみると、「家庭と仕事」が30代、40代、50代で選ばれており、60代、80代では「仕事のみ」、20代では「仕事と世間」。そして、70代では「家庭のみ」を選ぶ人が多かった。⑨の自分が役に立っている場としては、40代以降は「家庭のみ」をあげ、20代では「仕事のみ」、30代では「家庭と仕事」を多く選択していた。70代では第2位に「地域のみ」も選択されていた。これらは、⑧の可能性の実現同様に、各年代における主な役割が背景にあるものと考えられる。20代では仕事に打ち込み、結婚や子育てに追われる30代になると「家庭と仕事」の両方での働きが求められる。40代では家庭での責任が重くなってくる。そして、ほとんどの人がリタイアを迎えた70代、80代になってくると、地域や世間といった、住んでいる場での役割をとるようになるということが、自身が役立っていると感じられる場の選択の背景にあるものと思われる。

各年代でみると、どの項目でも家庭か仕事の選択が多く見受けられた。それから、20代は仕事を選択するケースが多く、60代以降では、世間も選択肢として多く選ばれていた。他の年代ではあまり世間という選択肢は選ばれてはいない。やはり、仕事において定年を迎えたあと、仕事の代わりに地域や世間といった場所がその人にとって重要な場となっていくものと思われる。

3. 婚姻の状況と生きがい獲得の場について

婚姻の状況と生きがいを構成する場の関連をみるために、質問項目ごとに生きがい獲得の場と、未婚、既婚、離別、死別についてその割合を算出したところ、表3のようになった。そして、未婚、既婚、死別について選択率の高い項目を示したものが図1である。離婚者については21名と少数であったため、ここでは他の3分類をとる。離婚者について

未婚者は9項目中5項目について「仕事のみ」が選択率第1位であった。次いで「友人のみ」が選ばれていた。

一方既婚者は9項目中6項目において「家庭のみ」が選択率1位であった。次いで「仕事のみ」が3項目において第1位の選択率であった。パートナーと死別した人については、3項目で「家庭のみ」が第1位に選ばれてい

たが、未婚者や既婚者と違い、「世間」や「地域」、「友人」というように、項目によって選択率1位のものが変わっていた。未婚者は「仕事」、「家庭」、「友人」が生きがいを獲得する場として選択されていたのに対して、既

表3: 婚姻状況と生きがい獲得の場選択1位 (%)

	未婚	既婚	離別	死別
生活の活力やはりあい	仕事のみ(18.8)	家庭のみ(32.2)	家庭と仕事(30.0)	家庭のみ(23.4)
生活のリズムやメリハリ	仕事のみ(39.2)	仕事のみ(22.0)	家庭と仕事(33.3)	家庭のみ(14.6)
心の安らぎや気晴らし	家庭と友人(40.9)	家庭のみ(36.7)	家庭のみ(33.3)	家庭と友人(35.5)
生活の喜びや満足感	友人のみ(22.0)	家庭のみ(38.0)	家庭と友人(26.3)	家庭と友人(16.7)
人生観や価値観への影響	友人のみ(22.0)	家庭のみ(21.2)	友人のみ(19.0)	世間のみ(15.7)
生活の目標や目的	家庭と仕事(21.5)	家庭のみ(46.9)	家庭のみ(30.0)	家庭のみ(32.6)
自分自身の向上	仕事のみ(30.7)	仕事のみ(16.3)	仕事と世間(19.0)	世間のみ(19.6)
自分の可能性の実現	仕事のみ(53.1)	仕事のみ(24.8)	仕事のみ(23.8)	地域のみ(14.4)
役に立つ等の有用感	仕事のみ(38.6)	家庭のみ(27.2)	家庭と仕事(19.0)	家庭のみ(25.3)

生きがい獲得の場の選択1位

	家庭と仕事	家庭と地域	家庭と友人	家庭と世間	仕事と地域	仕事と友人	仕事と世間	地域と友人	地域と世間	友人と世間	家庭のみ	仕事のみ	地域のみ	友人のみ	世間のみ	どちらでもない
生活の活力やはりあい											○△	●				
生活のリズムやメリハリ											△	●○				
心の安らぎや気晴らし			●△								○					
生活の喜びや満足感			△								○			●		
人生観や価値観への影響											○			●	△	
生活の目標や目的	●										○△					
自分自身の向上												●○			△	
自分の可能性の実現												●○	△			
役に立つ等の有用感											○△	●				

生きがい獲得の場の選択2位

	家庭と仕事	家庭と地域	家庭と友人	家庭と世間	仕事と地域	仕事と友人	仕事と世間	地域と友人	地域と世間	友人と世間	家庭のみ	仕事のみ	地域のみ	友人のみ	世間のみ	どちらでもない
生活の活力やはりあい	●		○△			●										
生活のリズムやメリハリ	●										○				△	
心の安らぎや気晴らし			○								●△					
生活の喜びや満足感			●○△													
人生観や価値観への影響			●○											△		
生活の目標や目的	○			△							●					
自分自身の向上						●					○△		△			
自分の可能性の実現							●				○△					
役に立つ等の有用感	●○											○	△			

●: 未婚

○: 既婚

△: 死別

図1: 未既婚別生きがい獲得の場

婚者になると「家庭と仕事」となり、「友人」はあまり選ばれてはなかった。第2位について見ると、未婚者、既婚者ともに「家庭」、「仕事」、「友人」のどれかの組み合わせもしくは単独で選んでいたが、死別した人は、「家庭」、「地域」、「世間」、「友人」というように、「仕事」は選択されていなかった。死別した人の特徴として、高齢者が多かったこともこうした結果にあらわれているものと考えられる。

表4: 有職者・専業主婦の生きがい獲得の場

(%)

	有職者(自営業・自由業を除く)		専業主婦	
	1位	2位	1位	2位
生活の活力やはりあい	家庭と仕事(28.3)	家庭(19.6)	家庭(37.8)	家庭と友人(21.8)
生活のリズムやメリハリ	仕事(41.5)	家庭と仕事(26.6)	家庭(22.8)	家庭と友人(10.9) 家庭と地域(10.9)
心の安らぎや気晴らし	家庭と友人(39.6)	家庭(33.6)	家庭と友人(35.7)	家庭(35.4)
生活の喜びや満足感	家庭(26.8)	家庭と仕事(21.7)	家庭(41.8)	家庭と友人(17.3)
人生観や価値観への影響	家庭(16.0)	仕事と友人(12.5) 友人(12.5)	家庭(20.5)	家庭と友人(17.5)
生活の目標や目的	家庭(36.3)	家庭と仕事(25.6)	家庭(50.6)	家庭と世間(20.2)
自分自身の向上	仕事(27.6)	家庭と仕事(14.4)	家庭(18.2)	世間(17.0)
自分の可能性の実現	仕事(45.1)	家庭と仕事(19.6)	家庭(23.7)	世間(14.3)
役に立つ等の有用感	仕事(32.3)	家庭と仕事(27.6)	家庭(36.5)	家庭と地域(11.7)

生きがい獲得の場の選択1位

	家庭と仕事	家庭と地域	家庭と友人	家庭と世間	仕事と地域	仕事と友人	仕事と世間	地域と友人	地域と世間	友人と世間	家庭のみ	仕事のみ	地域のみ	友人のみ	世間のみ	どちらでもない
生活の活力やはりあい	●										○					
生活のリズムやメリハリ											○	●				
心の安らぎや気晴らし			●○													
生活の喜びや満足感											●○					
人生観や価値観への影響											●○					
生活の目標や目的											●○					
自分自身の向上											○	●				
自分の可能性の実現											○	●				
役に立つ等の有用感											○	●				

生きがい獲得の場の選択2位

	家庭と仕事	家庭と地域	家庭と友人	家庭と世間	仕事と地域	仕事と友人	仕事と世間	地域と友人	地域と世間	友人と世間	家庭のみ	仕事のみ	地域のみ	友人のみ	世間のみ	どちらでもない
生活の活力やはりあい			○								●					
生活のリズムやメリハリ	●	○	○													
心の安らぎや気晴らし											●○					
生活の喜びや満足感	●		○													
人生観や価値観への影響			○			●								●		
生活の目標や目的	●			○												
自分自身の向上	●														○	
自分の可能性の実現	●														○	
役に立つ等の有用感	●	○														

●: 有職者

○: 専業主婦

図2: 有職者・専業主婦別生きがい獲得の場

4. 仕事と生きがい獲得の場

有職者と専業主婦によって生きがい獲得の場に違いがあるかどうかを見るため、現在の職業と生きがい獲得の場のクロス集計を行った。ただし、有職者のうち、自営業主・家族従業員、自由業、無職、その他の項目については除外した。その結果について、選択率第1位と第2位を表したものが表4である。また、それを図2に表した。

これらを見ると、有職者において生活の喜びや満足感、生活の目標や目的など自身の内面的な生きがいに関する項目においては「家庭」を選択し、自身の向上、自身の可能性の実現、有用感などでは「仕事」を選択していることがうかがえる。第2位を見ると、「家庭のみ」と「仕事のみ」を選択した人が多くなり、人生の価値観への影響については「友人」も選択されていることがわかる。一方専業主婦は、心の安らぎや気晴らしで「家庭と友人」が1位になっているほかは、どの項目についても第1位は「家庭」であり、第2位をみると「家庭と友人」、そして、「世間」や「地域」の選択が見られた。有職者にとっての自己の向上の場が「仕事」で、次の選択として「家庭」があがってくるのに対して、専業主婦にとっては、一番は「家庭」で、次の選択として「世間」を選んでいる。これらは、その人が主にどこで生活しているかという生活の場が、生きがい獲得の場として選択に影響を与えているのではないかと思われる。

5. 同居家族の有無と生きがい獲得の場について

同居家族の有無によって生きがい獲得の場の選択に違いがあるかどうかクロス集計を行った。表5はそれぞれの選択率1位、2位の結果である。また、その結果を図3に表した。

これらを見ると、選択率1位の場は、同居家族がいるにいかかわらず、ほとんどの項目で変わっていない

ことがわかった。生活の活力やはりあい、生活の喜びや満足感、人生観や価値観への影響、生活の目標や目的では、「家庭のみ」がどちらも選択率1位であった。生活のリズムやメリハリ、自分自身の向上では「仕事のみ」が、心の安らぎや気晴らしでは「家庭と友人」が、どちらも選択率1位であった。違っていたのは自分の可能性の実現と役に立つ等の有用感で、可能性の実現では、同居家族がいる者は、「家庭のみ」が、同居家族が居ない者は「世間」が選択率1位であった。有用感では同居家族が居る人は「仕事のみ」を選んでおり、逆に同居家族がいない人が「家庭のみ」を選択していた。第2位の選択をみると、同居家族ありの人は「家庭と仕事」、もしくは「家庭のみ」と、家庭の選択が多く見受けられる。一方同居家族なしの場合は、「家庭」のほかにも「友人」や「世間」、「仕事」など選択の場が多岐にわたっていることが分かる。同居の家族がいない人は年齢でみると60代以降がいない人の80%以上を占めているため、「世間」や「友人」といった身近に接する人が多い場が選択されていたのではないかと推測される。

まとめ

生きがいの構成要素をどのような場で獲得しているのか検討したところ、主に「家庭」や「仕事」の場を獲得の場所として選んでいることがわかった。そして、年齢によってもそれぞれの生きがいの構成要素を獲得する場は変化していくことがわかった。具体的には、若いほど「仕事」に対する比重が重く、高齢になるにつれ「世間」や「地域」といった場での獲得が選択されていた。そして、母や妻として多くの時間を過ごす女性にとって「家庭」は、常に生きがい獲得の場になりうる事が推測された。樋口(2004)は、高齢者の生きがいについて述べ

表5: 同居家族の有無別生きがい獲得の場

(%)

	同居家族がいる		同居家族がいない	
	1位	2位	1位	2位
生活の活力やはりあい	家庭(25.3)	家庭と仕事(18.4)	家庭(16.3)	友人(13.8)
生活のリズムやメリハリ	仕事(29.9)	家庭と仕事(20.4)	仕事(15.1)	家庭(12.3)
心の安らぎや気晴らし	家庭と友人(38.1)	家庭(35.3)	家庭と友人(32.5)	家庭(28.8)
生活の喜びや満足感	家庭(32.5)	家庭と仕事(17.5)	家庭(22.8)	家庭と友人(12.7)
人生観や価値観への影響	家庭(19.0)	家庭と友人(14.3)	家庭(17.1)	世間(15.8)
生活の目標や目的	家庭(44.6)	家庭と仕事(18.9)	家庭(25.4)	家庭と世間(16.9)
自分自身の向上	仕事(18.5)	家庭と仕事(12.5)	仕事(18.2)	世間(16.9)
自分の可能性の実現	仕事(34.6)	家庭(11.5)	世間(22.4)	仕事(17.1)
役に立つ等の有用感	仕事(24.4)	家庭(22.5)	家庭(18.2)	仕事(18.2)

同居家族の有無の違いによる生きがいの場の選択1位

	家庭と仕事	家庭と地域	家庭と友人	家庭と世間	仕事と地域	仕事と友人	仕事と世間	地域と友人	地域と世間	友人と世間	家庭のみ	仕事のみ	地域のみ	友人のみ	世間のみ	どちらでもない
生活の活力やはりあい											●○					
生活のリズムやメリハリ												●○				
心の安らぎや気晴らし			●○													
生活の喜びや満足感											●○					
人生観や価値観への影響											●○					
生活の目標や目的											●○					
自分自身の向上												●○				
自分の可能性の実現												●			○	
役に立つ等の有用感											○	●				

同居家族の有無の違いによる生きがいの場の選択2位

	家庭と仕事	家庭と地域	家庭と友人	家庭と世間	仕事と地域	仕事と友人	仕事と世間	地域と友人	地域と世間	友人と世間	家庭のみ	仕事のみ	地域のみ	友人のみ	世間のみ	どちらでもない
生活の活力やはりあい	●														○	
生活のリズムやメリハリ	●										○					
心の安らぎや気晴らし											●○					
生活の喜びや満足感	●		○													
人生観や価値観への影響			●												○	
生活の目標や目的	●			○												
自分自身の向上	●														○	
自分の可能性の実現											●	○				
役に立つ等の有用感											●	○				

●:同居家族あり
○:同居家族なし

図3:同居家族の有無別生きがいの場

る中で"生きがいを持つことが他者あるいは社会とのつながりを形成するのであり、社会における役割や意義を自覚することでの成立を意味することから、生きがいとは、個人の欲求充足的生きがいでだけでなく、「社会的生きがい」が追求されることと同義なのである"としている。つまり、個人の周りを取り巻く環境や対人関係など、どのようなコミュニティで生活を主にしているか、どのような役割をそのライフステージで求められているかということが、各生きがいの構成要素の獲得の場を規定しているように思われた。人は社会的な役割のなかで、それを果たすことで自己というものを確立していくものなのかもしれない。生きがいとは、まさに"生きている甲斐"であり、それらは、その人がどのような生活スタイルや役割をもっているかによって変化し、それによって獲得の場も規定されてくるといえよう。子どもを4、5

人生んで育ててきたかつての女性の生き方は、女性の一生=母親の一生であったが、現在は養育が終わった後も20~30年の年月が残され、母でもなく妻でもない私個人の人生を生きねばならなくなっている(柏木,2003)。それにともない、生きがいの意味、それをどこで獲得するかも変化していくものと思われる。今後の動向によってはさらなる変化が予測されるだろう。また、技術革新や政情など、時代の影響は免れない。今後の課題として、今回調査に協力してくれた方たちが、あと10年たった場合にどのような選択を行うのか、今後も続けてみていく必要があるものと思われる。

付記

本研究は東京家政大学大学院共同研究の一環として実施されたものである。

引用文献

- 1) 樋口正巳 2004 高齢者の生きがいと学習 西南学院大学紀要, 8, 65-73.
- 2) 井森澄江・大井京子 2006 女性における家庭・職場・地域・社会の意味Ⅰ 第48回日本教育心理学会発表論文集, 117.
- 3) 柏木恵子 2003 「家族心理学：社会変動・発達・ジェンダーの視点」 東京大学出版会
- 4) 西村純一 2005 a サラリーマンの生きがいの構造, 年齢差および性差の検討 東京家政大学研究紀要, 45, (1), 209—214.
- 5) 西村純一 2005 b サラリーマンの生きがい対象の構造, 年齢差および性差の検討 立教大学社会学部応用社会学研究, 47, 143—148.
- 6) シニアプラン開発機構 2002 第3回サラリーマンの生活と生きがいに関する調査—サラリーマンシニアを中心として—.
- 7) シニアプラン開発機構 2003 「サラリーマンの生活と生きがいに関する調査」のフォローアップ調査.

Abstract

This study is to examine the purpose in life of adult women from the viewpoint of life-span developmental psychology. Above all, it examines places for the purpose in life to find out where they feel the purpose in life in particular.

The subjects of the survey were 4200 graduates of a women's university A and its college located in the Metropolitan area. The responses were collected by post, and the subjects of the analysis were 979 respondents. The age ranged from 20 to 92. The respondent rate was 23%.

The results show that places where the purpose in life was acquired varied depending on a variety of items of the purpose in life, but a lot of people chose their homes. Especially in targets or objectives in life, 41.8% of the people chose their family. By generation, a lot of people in their 20s chose jobs, but the family ranked as top items in cases of people in their difference between married women and unmarried women, many unmarried women chose jobs, while many married women chose the family. In comparison between the intellectuals and full-time housewives, the family was selected in many questions by full-time housewives as expected, and career women chose jobs or jobs and the family.

From these results, it could be estimated that places where the purpose in life is acquired vary depending on where that particular person recognizes as a place to perform her own role and where she carries out her own life. We think it necessary to consider the lifestyle and life stage of that particular person, when one examines places where the purpose in life is carried out.